

プログラムの概要

動物生産学講座では、動物を対象として食料生産の過程や仕組み、生命科学などについて理解を深めることができる教育プログラムを編成しており、それらの関連分野において高度で専門的立場から地域社会ならびに国際社会に貢献することができる指導的人材の養成を目指しています。

修了認定の基準（ディプロマ・ポリシー）

（知識・理解）

- (A) 資源動物の育種と繁殖の理論並びに育種の方法と効率的な増殖方法について理解し、詳細な説明ができる。
- (B) 動物個体の各器官、組織および細胞の構造と機能について形態学および生理学的に詳細な説明ができる。
- (C) 資源動物の栄養学の基本的事項を理解し、体内に摂取した飼料成分の動物生産物（乳・肉・卵）までの消化・吸収、代謝について詳細な説明ができる。
- (D) 動物生産現場の生産技術および飼養管理について理解し、詳細な説明ができる。
- (E) 動物を対象とした生物実験および生化学実験の高度な手法を実施できる。
（当該分野固有の能力）
- (F) 組織学・衛生学・発生学・育種学・繁殖学などの生物実験および飼料や生体成分などの化学分析実験に用いる各種器具および機器の高度な操作を適切に遂行することができる。
- (G) 動物たんぱく質の効率的生産並びに安全性と関連させた飼料給与方法について詳細な説明ができる。
- (H) 生殖細胞を用いた動物生産の最先端技術を実践でき、遺伝子組換えや体外受精などの人工繁殖技術による新品種開発について詳細な説明ができる。
- (I) 産業動物・実験動物などの資源動物に対し安全かつ高度な飼養管理をすることができる。
- (J) 動物生産学分野に関わる最先端の知識、理論および技術を理解し、当分野の課題・問題解決へと展開できる。

履修条件（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

- (1) 農業やバイオサイエンスに関する高度な知識や技術を修得して、地域社会や国際社会に貢献しようとする夢と情熱を持つ人
- (2) 動物生産学講座で学んでいくための基礎となる知識や技術を修得している人
- (3) 主体性があり、常に問題意識を持ち、解決に向けて自ら考え、行動を起こす意欲と能力を備えている人
- (4) 将来、動物生命科学やバイオサイエンスに関連する分野に従事し、この分野の指導的立場をめざす人

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 大学の生物や生命科学に関する教育課程を修了し、動物生産に関する基本的な学力を備えているかどうかを重視します。
- (2) 入学試験では動物学およびその関連分野に対する熱意と能力も評価の対象とします。
- (3) 社会人特別選抜では、主体的な姿勢、思考力、表現力、コミュニケーション能力なども考慮して評価します。

学修・教育目標を達成するためのカリキュラム方針（カリキュラム・ポリシー）

動物生産学の応用専門知識を身につけるため講義と演習を行い、平行して実験研究活動の全般について教育を行っています。

講義と演習：動物生産学領域の知識と技術を基に、さらに高度な専門家としての能力を高めるために先端研究成果を学びます。そのために必要な専門英語演習や口頭発表・討論などの総合学修を展開します。

実験研究活動：先端研究を実際に遂行できる能力を身につけるため、実験技術に加え、論文の検索と知識の収集法、実験計画の立て方、結果の処理と解釈、動物取り扱いの倫理などを学びます。また、セミナーを通して論文の書き方や研究成果の表現方法を身につけ、国内外の学会や研究会において成果発表を行います。動物生命科学に携わるにあたり、必要な技術者倫理や研究者としての行動規範を備えた人材育成を目指しています。

生物生産科学専攻 動物生産学講座 カリキュラムツリー

	1年次		2年次		学修・教育目標
	前期	後期	前期	後期	
動物生産学に関する高度な専門能力を身につける	生物生産科学特別研究I 生物生産科学特別実験I	生物生産科学特別研究I 生物生産科学特別実験I	生物生産科学特別研究II 生物生産科学特別実験II	生物生産科学特別研究II 生物生産科学特別実験II	動物生産学領域の専門家としての高度な先端知識を基に、今後直面するであろう問題を解決する能力を身につける
	動物基礎生命科学特論 動物育種繁殖学特論IIA 動物栄養制御学特論I 家畜生産学特論	動物機能形態学特論IA 動物機能形態学特論IIA 動物育種繁殖学特論IA 動物栄養制御学特論II	生物生産科学特別講義III 生物生産科学特別講義IV	動物機能形態学特論IB 動物機能形態学特論IIB 動物育種繁殖学特論IB 動物育種繁殖学特論IIB	
動物生産学の応用専門知識を身につける					